和歌と本文の関係性

～和歌をもとに本文の内容を推測しよう～

1　科 目 名　　古典Ｂ

2　単 元 名　　日記

3　教 材 名　　蜻蛉日記　町の小路の女

4　単元の内容

単元の目標と評価規準・評価方法

①単元の目標

ア　文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して深く読み味わおうとする。（関心・意欲・態度）

イ　和歌に詠まれた内容をもとに、本文の内容を理解したり、作者の意図をとらえたりする。（読む能力）

ウ　和歌に用いられる表現技巧に対する知識をもつ。（知識・理解）

②単元の目標設定の理由

生徒たちは逐語訳を完成させることに躍起になるあまり、肝心の本文の流れや心情の変化に着目できていないことが多い。そのため、文脈が理解できていないと内容を理解できない和歌の解釈に苦手意識をもってしまっている。和歌の解釈ができないことによって、その文章が本来もっている面白さに気付くことができていない。古文の解釈を通して人生を豊かにする態度を育成するためにも、和歌の解釈を通して古文に対する興味関心をもたせる必要がある。

③中心となる学習活動

普段の授業の進め方としては、「音読→一文ごとの訳→全体の解釈」といった流れで行うことが多いが、今回は和歌に着目させるためにも、導入に和歌の逐語訳を行い、それを根拠に本文のあらすじを推測させる。その後本文全体の内容理解に入り、本文全体における和歌の重要性に意識を向けさせる。

メリットとしては和歌の逐語訳を行うことで、単語や文法、修辞についての説明をより具体的且つ重要性に着目させて行うことができる。また、本文と和歌とを別々に理解しようとするのではなく、和歌と文脈との関連性に意識を向けさせることもできる。

デメリットとしては、あらすじを推測させるためには最低限の情報をヒントとして提示しなければならず、ヒントが多すぎても少なすぎても生徒の考えるチャンスを奪うこととなってしまうため、適切なヒントを、生徒に応じて行わなければならない。

④言語活動の工夫

前述した和歌の逐語訳を行った後、ヒントをもとに各自であらすじを考える。その後数名のグループを作り、それぞれが考えたあらすじを交流させ、他者の視点を通して、自分の考えを確立させる。同時にグループ内で最も高い評価を受けた者のあらすじを発表し、その中でも最も共感を集めるものを選び、クラス内でのあらすじの支柱として確立する。その後の授業では、そのあらすじに合わせた解説を行うことで共通の理解を促すようにしたい。

他の生徒と交流しなければならないという状態を作ることで、個人の思いつきによる推測をしないように促し、数少ないヒントの中から根拠を見つけ出そうという姿勢をもたせることができると考えた。根拠をもって考えることで後の本文の内容把握をする時に本文中から根拠を見つけようとする意識を植え付けることも出来るのではないか。また、他者の作品を評価することでより多くの作品に触れ、新しい視点に気付くように促すことができる。

ただし、根拠をもとに推測するためには、時代背景に関する知識や古典文学への関心が必要である。適宜ヒントを出しながら、関心の低い生徒にはあらすじを創作することから始めることも考える必要がある。

⑤評価

	評価規準	評価方法	状況Cの生徒への対応
関心・意欲・態度	①自らの考えをもち、仲間と積極的に交流している。	点検（ワークシート） （評価表） 観察（机間指導） （発表）	・考えの参考となるヒントを提示する。 ・人物を特定して考えさせる。
読む能力	①和歌の逐語訳をもとに本文の内容を考えることができる。 ②和歌に込められた詠み手の心情を正しく理解し、本文の内容を理解することができる。	点検（ワークシート） 観察（机間指導） （発言）	・自分の経験や現代の状況に置き換えて考えさせる。
知識・理解	①作者・作品に関する正しい知識をもつことができている。 ②語句の意味・用法や和歌の修辞技巧を正しく理解している。	観察（机間指導） （発言） 点検（ワークシート）	・辞書や文法書、国語便覧などを用いて調べるよう指示する。 ・これまでに行った授業内容を例として提示する。

成果と課題	・いつもと違う授業形式に戸惑う姿が見られたが、周囲の生徒と交流する時点では楽しく、活発な意見交流が行われていた。「和歌のみの訳をすることの難しさ」や「本文における和歌の重要性」、「作品に関する知識の必要性」など、これまで説明するだけでは実感として感じることができなかった事項を、実感として認識することができていた。 ・本文の内容理解を後回しにしたことによって、自分の考えがあっていたのか違っていたのかだけでなく、なぜ内容が違ってしまったのかを周囲と交流している姿も見られ、黒板を写すだけの受身な授業態度が多少なりとも改善されていた。
アドバイス及び留意点	・最初は何を考えて良いのかわからず、和歌の現代語訳をなぞるだけのような意見もあった。全体に「作品についての特徴」や「登場人物の相関関係」をヒントとして提示したが、程度が難しいので、作品や作者に関してくらいは事前に調べさせたほうが良い。
小中学校との系統性	（中学校・３学年・Ｃ　読むこと） （ア）歴史的背景などに注意して古典を読み、その世界に親しむこと。 （イ）古典の一節を引用するなどして、古典に関する簡単な文章を書くこと。

5　単元の学習概要

時間	各時間の目標	主な学習活動の流れと指導上の留意点	評価規準 ↓ 評価方法	状況Cの生徒への対応 ↓ 次時に注意すること
1	○提示された二首の和歌にいたる物語の展開を考え交流する。	・提示された和歌の現代語訳をし、交流をする。【Cア】 ・和歌の修辞技巧についての知識を確認する。【イ（イ）】 ・確認した和歌の内容に沿って、そこに至るまでの内容を推測し、交流する。【Cエ】	・語句、文法、表現技巧に対する正しい知識をもち、現代語訳ができる。【知】 ・和歌の内容に沿って本文を推測できる。【読】 ↓ 観察（机間指導） 点検（発表・ワークシート）	・該当箇所を指摘し、事前に上げておいた表現技巧のどれが使われているかを考えさせる。

2	○①の和歌以前の内容を確認し、自分の考えと比較する。	・該当箇所の現代語訳を行う。　【Cア】 ・和歌と本文の内容を関連付けるポイントを把握する。　【Cエ】 ・把握した内容をふまえ、①と②の和歌の間の内容を検討し直す。　【Cエ】	・単語・文法に則した正しい現代語訳ができる。　【知】 ・内容理解のポイントが把握できる。　【読】 ↓ 観察（机間指導） 点検（発表・ワークシート）	・「ほかに」「とだえ」といった語に着目させ、「（ほかには）何を指すのか」「何が（とだえ）なのか」といった具体的な質問を投げかけ、考えさせる。
3	○①と②の和歌の間の内容を確認し、自分の考えと比較する。	・該当箇所の現代語訳を行う。　【Cア】 ・和歌と本文の内容を関連付けるポイントを把握する。　【Cエ】 ・把握した内容をもとに、②の和歌に込められた作者の心情と③の和歌との関連性を考える。　【Cエ】	・単語・文法に則した正しい現代語訳ができる。　【知】 ・内容理解のポイントが把握できる。　【読】 ・掛詞などの表現技巧を正しく理解できる。　【知】 ↓ 観察（机間指導） 点検（発表・ワークシート）	・本文中の「」部分の主体を確認させる。 ・「移ろひたる菊」などの表現に着目させる。
4	○本文全体を振り返り、和歌にどのような思いが込められているかまとめる。	・③の和歌以降の現代語訳を行う。　【Cア】 ・作者の心情の変化の推移を和歌の内容をもとに考える。　【Cエ】 ・「蜻蛉日記」という作品に関する知識をもち、時代背景や登場人物に関する知識を深める。　【Cウ】	・和歌及び作者の行動から作者の心情の変化を適切に読み取ることができる。　【読】 ・作品に関する知識を確認する。　【知】 ↓ 観察（机間指導） 点検（発表・ワークシート）	・和歌と関連した作者の行動を示す部分を明示して考えさせる。 ・作品に関して調べた内容を周囲で交流させる。

6　第１時の学習指導案

本時の位置	1　時間目（全４時間）
本時の学習目標	ア　和歌の逐語訳を正確に行い、修辞技巧に関する理解を深める。　（知識・理解） イ　和歌の内容をもとに本文の内容を推測することができる。　（読む能力）
事前の準備	①　和歌を提示し、逐語訳を行ってくるように指示する。 ②　蜻蛉日記について調べてくるように促す。

	学習内容	学習活動	指導上の留意点及び評価
導入 5分	□本時の目標と課題の提示	①予習の確認	・なぜするのか、何の為になるのかを明確に示し、目的意識をもたせる。
展開 38分	和歌の逐語訳を完成させよう。 □逐語訳の確認	②予習してきた和歌の訳を隣り同士で確認し合い、指摘し合う。 ↓ 交流後、指名して全体で確認する。	・活発に意見交流ができるように促す。

	□句切れ、掛詞、縁語の確認	③和歌の修辞技巧の種類を挙げさせ、今回の和歌に使われているものはないか考える。	**目標　ア　に対する評価規準と評価方法** 〔規準〕 和歌の修辞技巧を正しく理解できる。 〔方法〕 観察（机間指導・発言） 〔状況Ｃの生徒への手立て〕 ・文法書の該当箇所を見るように指示する。 ・過去に授業で扱った和歌を例示する。
	本文を推測しよう。		
	□本文の推測	④ワークシートのヒントを確認し、それをふまえて10分程度で行う。 ⑤出来上がったワークシートを４～６人程度のグループを作って交流する。 ⑥グループ内で最も良いものを１つ選び、全体で発表する。 ⑦全体交流までを終えた後、自分のワークシートに加筆修正を行う。	・まずは個人で考えるよう促す。 **目標　イ　に対する評価規準と評価方法** 〔規準〕 根拠を明確にして内容が推測できる。 〔方法〕 観察（発言・交流） 〔状況Ｃの生徒への手立て〕 ・和歌の訳とヒントを根拠にすることに留意させる。
まとめ２分	□本時のまとめと次時の予告	⑧全文訳を行いながら、本時に行った内容の正誤判定を行う旨を伝え、予習する範囲を指示する。	・予習の段階から正誤判定を意識するように指示する。